

若者の結婚意識に関する一考察 I
——女子短大生の結婚意識分析を中心として——

A Study on Young People's Consciousness toward
Marriage

—— Analysis of Marriage Consciousness of Female Junior College Students ——

山本 優貴

YAMAMOTO Yuki

若者の結婚意識に関する一考察 I

——女子短大生の結婚意識分析を中心として——

A Study on Young People's Consciousness toward Marriage

—— Analysis of Marriage Consciousness of Female Junior College Students ——

山本 優貴

YAMAMOTO Yuki

要旨：日本における未婚化・少子化の加速はブライダル業界にも大きな影響を与えている。

結婚式の実施組数が減少している以前に、「婚姻数」の大幅な減少、更には、それ以前の男女の「出会い」の減少、根本的なところでは、若者の恋愛に対する興味の薄さや結婚そのものへの関心の薄さが浮き彫りとなっている。本研究では、結婚への意識調査とし、結婚前の女子短大生（19～20歳）36名へ無記名によるアンケート調査を実施した。現在のパートナーの有無や結婚観について、また、その結婚観が形成されたであろう時期や、親の婚姻状況などが影響しているのかも併せて調査した。女子短大生の結婚に対する意識を分析した上で、ブライダル業界が果たしていく今後の役割を検討することを目的とする。

キーワード：結婚、婚姻数、結婚観、初婚年齢、非婚化、なし婚

1. はじめに

内閣府が令和4年版の『男女共同参画白書』を公表した。それによると、20代女性の約40%が交際経験が一度もなく、約52%が配偶者・恋人がいないと回答した。「結婚意思なし」という回答に関しては、20代では14%、30代では更に増加し、25.4%の割合であった。日本では恋愛結婚が約90%となっており、恋愛と結婚に連続性があるケースが多く見られる。だが、結婚以前に、恋愛が面倒という若者が年々増加傾向にある。「自由でいたいから、結婚に縛られたくないか

ら」という理由が、20～39歳独身男女ともに1位であることからわかる。

近年、婚姻・出生数の減少は喫緊の重要課題となっている。政府が予測していたよりも急速に我が国の少子化が進んでいる。それは、将来的に結婚する可能性のある若者たちの数が減少しているということである。2019年は、平成から令和への改元があり、婚姻数は約59万組と前年度よりも若干増加した。ところが、2021年には約51万組と、その2年間だけで約8万組もの婚姻数減となった。そもそもの少子化、更には晩婚化などの影響に加え、結婚はしたくないという非婚化層の増加、結婚がしたくてもできないという層の拡大も大きく影響している。

初婚年齢に関しては、男性31歳・女性29歳とここ数年は大幅には変わっていない。男女ともに30代の結婚はもちろん、40代50代での結婚も今やまったく珍しいものではなくなっている。その結果として、結婚を希望する人の年齢層が以前よりも幅広くなっているのである。

Z世代である19歳から20歳の若者たちの結婚観は、一体いつ頃までに形成されているのか、そして、どのような理由や影響から、将来の「結婚」のイメージを持つようになるのだろうか。学生たちへのアンケートを基に、ブライダル業界の未来へ活かしたい。

本アンケートは、埼玉女子短期大学の「ブライダルアテンダー実務」「ブライダルマーケティング」の受講生に対し、任意・無記名で実施したものである。尚、ここで示す結婚とは、法的な婚姻を指すこととする。

2. 方法

2.1 対象者

関東在住の日本人女子学生 36名（19～20歳）

2.2 調査時期

2021年11月

2.2 調査内容

(1)～(2)は共通設問、(3)～(7)は結婚を希望している学生、(8)～(12)は結婚を希望していない学生に対する設問とした。それぞれが7つの設問から構成される結婚意識に関するアンケート調査を行った。無記名、回答は任意とした。各設問には、4つの選択肢を用意し、そのうち1つ

を選ばせる方法をとった。該当する回答がない場合には、「その他」という選択肢を選ぶことも可能にした。以下に「結婚に関するアンケート」の設問内容を示す。

- (1) お付き合いをしているパートナーはいますか？
- ① 現在いる
 - ② 過去にいたことがある
 - ③ 一度もいたことはない
 - ④ その他
- (2) 今のパートナーに関わらず、将来的に結婚をしたいと思えますか？
- ① いつかは結婚したい
 - ② 今すぐにでも結婚したい
 - ③ 具体的な理想年齢がある
 - ④ 結婚はしたくない
- (3) 【結婚を希望している方】に伺います。それは何歳頃までのイメージですか？
- ① 25歳まで
 - ② 30歳まで
 - ③ 35歳まで
 - ④ その他
- (4) 【結婚を希望している方】に伺います。いつかは結婚がしたいと考えるようになったのはいつ頃からですか？
- ① 幼少期～小学生時代
 - ② 中学生時代
 - ③ 高校時代
 - ④ それ以降
- (5) 【結婚を希望している方】に伺います。ご自宅には親御様の結婚式の写真がありますか？
- ① 写真があり部屋に飾られている

- ② 飾られてはいないが見たことはある
- ③ 不明・写真を見たことはない
- ④ その他

(6) 【結婚を希望している方】に伺います。「結婚」が持つ言葉のイメージについて、ご自身の考えに最も当てはまるものを選んでください。

- ① 幸せ
- ② 苦勞
- ③ 努力
- ④ その他

(7) 【結婚を希望している方】に伺います。親御様の婚姻状況について教えてください。

- ① 婚姻関係継続中
- ② 離婚している
- ③ 離婚後再婚している
- ④ その他

(8) 【結婚を希望していない方】に伺います。結婚をしたくない理由は何ですか？ ご自身の考えに最も近いものを選んでください。

- ① ひとりが楽だから
- ② 親の姿を見てあまり良いものだと思わないから
- ③ 良い人とめぐりあえるかわからないから
- ④ その他

(9) 【結婚を希望していない方】に伺います。結婚をしたくないと考えるようになったのはいつ頃からですか？

- ① 幼少期～小学生時代
- ② 中学生時代
- ③ 高校時代
- ④ それ以降

- (10) 【結婚を希望していない方】に伺います。ご自宅には親御様の結婚式の写真がありますか？
- ① 写真があり部屋に飾られている
 - ② 飾られてはいないが見たことはある
 - ③ 不明・写真を見たことはない
 - ④ その他
- (11) 【結婚を希望していない方】に伺います。「結婚」が持つ言葉のイメージについて、ご自身の考えに最も当てはまるものを選んでください。
- ① 幸せ
 - ② 苦勞
 - ③ 努力
 - ④ その他
- (12) 【結婚を希望していない方】に伺います。親御様の婚姻状況について教えてください。
- ① 婚姻関係継続中
 - ② 離婚している
 - ③ 離婚後再婚している
 - ④ その他

3. 結果及び考察

以下の表は、設問(1)～(12)までの結果をまとめたものである。表中の数字は、割合を表す百分率である。小数点第2位を四捨五入しているため、合計が必ずしも100%になっていない場合がある。尚、設問(1)～(2)は全員共通のため、全体の36サンプル内での割合を提示することとし、(3)～(7)については該当した34サンプル、(8)～(12)についても該当した2サンプルが母数となっている。

表1 女子短大生の結婚意識調査結果

回答 設問	①	②	③	④
(1)	25.0	52.7	19.4	2.0
(2)	63.8	2.0	27.0	5.0
(3)	32.3	61.7	58.0	0
(4)	23.5	20.5	44.1	11.7
(5)	11.7	64.7	17.6	5.8
(6)	79.4	8.8	2.9	8.8
(7)	82.3	14.7	2.9	0
(8)	50.0	0	0	50.0
(9)	0	50.0	50.0	0
(10)	0	0	50.0	50.0
(11)	0	50.0	0	50.0
(12)	100	0	0	0

今回の調査から、次のような傾向が認められた。

- 1) 4人に1人はパートナーがおり、過去にパートナーがいた人も含めると77.7%である。2人に1人は「一度もいたことがない」と回答した。
- 2) 将来的に結婚を希望する人は、全体の94%であり、希望しない人は5%であった。漠然と「いつかは結婚したい」という回答が約64%と大多数であったが、全体の27%は既に具体的な希望年齢をイメージしていた。
- 3) 結婚したい人34人のうち、94%が30歳までの結婚をイメージしており、34人全員が35歳までに結婚したいと回答。理想の結婚年齢のイメージは、結婚したい人全員が持っていた。
- 4) 結婚したい人34人のうち、約88%が高校時代までに将来の結婚の希望を考えていた。中でも中学・高校時代で結婚の方向性を考えていた人が64.6%、結婚したい人の約半分にあたる約44%が高校時代には方向性を決定していた。
- 5) 親の結婚式の写真が飾られている家庭は、結婚したい34名中約12%と少数。約65%と大多数は写真が飾られてはいないが、そのもの自体を見たことはあったという。親の結婚写真が子供に対して、何らかのイメージ刷り込みになっていることも考えられる。

- 6) 結婚したい人34人のうち、79.4%が「幸せ」という言葉を連想した。「苦勞」「努力」などの一見マイナスな言葉を選択した人は少なかった。
- 7) 結婚したい人34人のうち、約82%の親が婚姻関係継続中。約15%の親が離婚、約3%の親が離婚後再婚している。合わせて18%の親が離婚を経験しているが、その子供は全員結婚したいと考えている。
- 8) ここからは、結婚の希望がない人への設問となっている。「結婚はしたくない」を選択した人は、全体の約5%。理由としては、「1人が楽」「その他」という回答。「その他」に関しては、リサーチが必要だが、結婚に対し極端にマイナスなイメージがある訳ではない印象。
- 9) 結婚したくない人2人のうち、2人ともが高校時代までに将来は結婚をしないという方向性を考えていた。これは、上記4)と同様で、結婚するしないのどちらにせよ、100%の人が高校時代までに方向性を決定していたことがわかる。
- 10) 親の結婚式の写真は不明、見たことがないという選択をした人が50%、その他50%。
- 11) 結婚したくない人2人のうち、50%が「苦勞」、50%が「その他」という言葉を連想した。結婚に「幸せ」というプラスのイメージを持っている人はいなかった。
- 12) 結婚したくない人2人のうち、100%の親が婚姻関係は継続中であった。

4. 今後の課題

今回は、サンプル数が少数だったため、今後はサンプル数を増やし継続して調査を重ねる必要がある。また、可能であれば、彼女たちの3年後、5年後と年齢を重ねた上での、結婚に対する考え方の意識変化も追いかけていきたい。

今回のサンプル対象者は、元々ブライダル業界に興味関心のある学生たちであったが、志望の異なる学生を交えた調査での回答の変化、更に、年代、性別による結婚観の違い、結婚観に影響を与えたと思われる対象物や対象人物なども比較できるようにすることが今後の課題である。

5. まとめ

本調査は、結婚意識について19歳～20歳の未婚の女子短期大学生36名を対象に行ったもので

あった。結果として、全体の94%にあたる学生が、調査時点では結婚を人生プランに組み込んでいることがわかった。その中でも約88%の学生が高校時代までに将来の結婚を意識し、反対に、結婚はしたくないという意識を持つようになるのも、同時期までであった。

このように、高校生の時期までに結婚観がある程度固まってしまうという今回の分析から、恋愛や結婚、ライフプランの設計について早期の段階から学ぶ機会が必要であるといえる。近年、高校で金融教育が導入されたように、結婚に関しても自分のライフプランを考える機会として「恋愛・結婚学」を導入をしていくと良いのではないだろうか。実際に、2010年代から、他大学では「恋愛学」「婚学」などの講義が学生たちの評判を呼んでいるという事例もある。

このように早期の取り組みから、若者の恋愛・結婚への意識を高め、日本の婚姻率底上げの工夫をしていくとことで、将来的には結婚したい人を増やすことに繋がると考える。また、自分にとっての身近な人物、例えば、兄弟や友人、学校や仕事先での先輩・後輩などで幸せな結婚をする人が増えることや、魅力ある結婚式の参列経験を増やしていくことが、若者の結婚意識に影響を及ぼすと予想される。

ブライダル業界の今後の取り組みとしては、この時代の若者の意識に合わせ、結婚式よりも手前段階にある「出会い」や「恋愛」についての勉強会開催などを、中高生時代の早いタイミングで実施することが考えられる。また、結婚はしても結婚式は実施しない「なし婚」層に向けても、また別の角度からのアプローチが必要とされる。その場合、現代の時代感覚や若者の意識感覚に合わせ、業界全体で結婚式を再定義することも必須である。結婚式を「大切な人に想いを伝える機会」として、まだ結婚意識が定まっていない幼少期でも参加できる体験イベントなどを実施し、間接的にでも早くから結婚式に触れられる機会を設けていきたい。

参考文献

imidas 『先生、「婚学」したら結婚できますか?』 <https://imidas.jp/jijikaitai/f-40-088-12-08-g369>
2022年6月閲覧

pwc 『結婚観・家族観に関するアンケート』

<https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/marriage-and-family-views2020-01.html#q3> 2022年6月閲覧

THE SANKEI NEWS 『日本初「恋愛学」とは』

<https://www.sankei.com/article/20191022-IS3D7BZ3VVKONGKXJ7MSFAOR4I/>
2022年6月閲覧

結婚を考える会 『「婚活」受難時代』 角川新書, 2020.

佐藤信 『日本婚活思想史序説』 東洋経済新報社, 2019.

高橋勅徳 『婚活戦略』 中央経済社, 2021.

内閣府 『男女共同参画白書 令和4年版』

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/pdf/r04_tokusyuu.pdf
2022年6月閲覧

橋本きよみ 『大人の婚活』 きずな出版, 2020.

リクルートブライダル総研 『恋愛・結婚調査』 https://souken.zexy.net/research_news/love.html
2022年6月閲覧

リクルートブライダル総研 『リクルートブライダル総研作成 婚姻組数予測』

https://souken.zexy.net/research_news/konin.html 2022年6月閲覧

